

公立大学法人長野大学

令和3年度 業務実績に関する評価書

令和4年8月

上田市公立大学法人評価委員会

◆ 目 次

I	令和3年度の業務実績評価について	3
II	評価結果	
1	全体評価	4
2	大項目別評価	6
3	項目別の事業単位・指標単位評価	7

上田市公立大学法人評価委員会 委員

役職	氏 名	所 属・職 名
委員長	たむら しげる 田村 秀	長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授
委員長職務代理者	とりい のぞみ 鳥居 希	株式会社バリューブックス 取締役
委 員	きとう あきお 佐藤 明生	元信州大学大学院 教授・学長補佐
委 員	しろした とおる 城下 徹	城下工業株式会社 代表取締役
委 員	にしまき あつこ 西牧 敦子	西牧敦子税理士事務所 税理士

I 令和3年度の業務実績評価について

上田市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法に基づき、「業務実績の評価に関する基本的な考え方」及び「公立大学法人長野大学 各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領」により、公立大学法人長野大学（以下「法人」という。）の令和3年度における業務実績について、評価を行った。

1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性、自主性、自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況を踏まえ、法人の業務実績全体について総合的に行う。
- (3) 評価は、一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (5) 評価の仕組みについては、必要に応じて工夫・改善を行う。

2 評価方法

年度評価は、その目的を効率的かつ効果的に達成するため、法人がその業務実績に基づいて行う自己評価結果を踏まえ、項目別に評価のうえ、中期計画の進捗状況について総合的な評価（全体評価）を行った。

・全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

・大項目別評価

事業単位及び指標単位評価の結果を踏まえ、中期計画における5つの大項目（8区分）ごとの進捗状況について評価を行った。

・項目別評価

法人から提出された業務実績報告書について、法人関係者からのヒアリング等によって検証のうえ、事業単位及び指標単位毎の実施状況または達成状況を確認し、評価を行った。

評価区分	評価	標語	評価の目安	
項目別評価	事業単位評価	a	年度計画を達成	上回る／十分な実施
		b	年度計画を概ね実施	実施
		c	年度計画を十分に実施せず	下回る／実施が不十分
		d	年度計画を大幅に下回る	特に劣る／実施せず
	指標単位評価	a	年度計画を達成	達成率 100%以上
		b	年度計画を概ね実施	達成率 80%以上 100%未満
		c	年度計画を十分に実施せず	達成率 60%以上 80%未満
		d	年度計画を大幅に下回る	達成率 60%未満
	大項目別評価	A	中期計画の進捗は順調	大項目別（8区分）に、中期計画の進捗状況について、事業単位評価及び指標単位評価から総合的に勘案し、評価
		B	中期計画の進捗は概ね順調	
		C	中期計画の進捗はやや遅れている	
		D	中期計画の進捗は遅れている	
全体評価	中期計画の進捗は順調		中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価	
	中期計画の進捗は概ね順調			
	中期計画の進捗はやや遅れている			
	中期計画の進捗は遅れている			

Ⅱ 評価結果（全体評価／大項目別評価／事業単位・指標単位評価）

1 全体評価

（１）評価結果

「中期計画の進捗は概ね順調である」

（２）評価理由

ア．総括

大学改革に関しては、県内で初となる福祉系大学院として長野大学大学院総合福祉学研究科を開設し、また、淡水生物学研究所の土地・建物等の財産を国から取得して付属研究機関として始動した。今後、教育研究の更なる高度化に期待したい。

一方、令和２年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が大きくあったが、オンラインを有効に活用しながら、大学全体で安全対策を講じた上で原則として対面による授業を実施する等、新たな環境に対応するため、取り組まれていることは評価する。

今後、理工系学部設置という大きな改革に向け、上田市と連携して魅力ある大学にするための各種の取組に期待する。

イ．今後に対する意見

（ア）授業評価アンケートを選択式で行いデータ化し、見える化することは、今後の授業改善につながるものであり、広く一般的に行われている。匿名性の確保やアンケートの回収方法に検討の余地があるが、教員と学生の双方にとってアンケート結果が生かされるよう改善を図られたい。

（イ）国公立大学は、第一志望の受験生がほとんどである一般選抜前期を重視し、個別学力試験を実施している。その一般選抜前期の実質倍率（受験者÷合格者）は、ここ数年、大きく下がっている傾向がみられ、もはや、実質倍率を見る限り、公立化のアドバンテージはなくなっている厳しい状況である。この状況を改善するため、学部学科再編に併せて前期への個別学力試験の導入や前期、中期の定員の見直しに関する議論を早急に進めるべきである。

（ウ）理工系学部の新設を柱とする学部学科再編については、財務シミュレーション等が実施されているものの、未だに学部学科再編全体の具体的な形となっていない。大学院や淡水生物学研究所を含む、大学全体の将来構想の提示が求められる。

（エ）理事会、経営審議会、教育研究審議会のジェンダーバランスが偏り過ぎており、大学運営のリスクとして認識すべきである。数値設定による明確な目標設定等の積極的な改革が望まれる。

また、教授職が全体の７割を超える等、職位及び年齢層に大きな偏りがみられる。中長期にはバランスの取れた組織となるよう、教員採用では若手を積極的に受け入れるためにも講師職を設けるとともに、昇任基準の適切な運用に努めるべきである。

（オ）年度計画について、目標設定が低い、あるいは重要な内容の記述が希薄等の項目が散見される。常に高い目標をもって計画を策定し、魅力ある大学となるべく、努めてもらいたい。

〈重点事項への取組について〉

【教育】 B 中期計画の進捗は概ね順調

令和3年度は教養教育の全学共通カリキュラムが設定されスタートしたこと、懸案であった教員評価制度が導入となったこと、大学院が開設され学生が入学したこと等、着実に前進している点について評価できる。また、コロナ禍の環境の中、できる範囲でできる方法を試しながら様々な教育活動が続けられており、その努力も評価できる。

授業の改善については、授業アンケートの実施方法等の更なる見直しと、関係者の認識を共有し、より良い授業内容となるよう望む。

地域協働型教育に関しては、企業・組織・団体との連携を更に強め、公立大学であることの有用性を地域の企業や市民が感じられるよう、一層の努力を望む。

また、一般選抜前期の募集人員が109名に対して、その2倍以上の234名の合格者数を出していることから、早急に前期と中期の募集人員の見直し等を含めた検討が必要である。

【実質倍率 実績】 H30 : 2.34 倍 → R1 : 2.45 倍 → R2 : 1.72 倍 → R3 : 2.44 倍 → R4 : 1.41 倍

【研究】 B 中期計画の進捗は概ね順調

学長裁量による独自の助成金制度が始まる等、徐々にではあるが、研究に対する姿勢や研究助成金獲得に向けた動き等が進展してきていることを評価する。一方、理工系学部の設置方針を踏まえ、今後、研究力の把握、評価について本格的に取り組むことが求められる。

淡水生物学研究所については、その位置付け（理工系学部や既存学部との関係性や研究機関としての独自性・重要性等）や基本方針を内外に明確に示すべきと考える。

【地域貢献】 B 中期計画の進捗は概ね順調

地域との連携による運営姿勢は大きな特徴であり、様々な取組が行われ効果を生んでいることを評価する。特に多数実施されているフィールドにおける学生の教育活動は、そのまま地域貢献にもつながっており、今後も着実に進められていくことを期待する。

地域貢献や学外窓口の中心的存在として「地域づくり総合センター」が存在すると認識しているが、その活動がまだ見えにくい。外部（市民や企業・団体）の目線からすると、大学は敷居が高い場所であり、その敷居を下げる窓口として同センターを明示することは、地域に開かれた大学（地域貢献）につながると考える。同センターの組織強化と、よりアクセスしやすい形の構築、身近に感じられる広報活動を望む。

【大学運営の改善】 B 中期計画の進捗は概ね順調

理事長・学長のイニシアチブによる組織運営体制の改善、内部監査の継続実施と第三者外部監査の導入、裁量性労働の導入、職員研修や評価制度の導入準備及び若手の業務改善取組等に加え、理工系学部設置に併せた各種調査分析と財政シミュレーション等、今まで懸案になっていた多くの事項が一步前に進んできていることを実感し評価できる。

尚、これらは実施の緒に就いたところで、結果は今後の取組によることが多いことから、更なる積極的な推進を望む。

2 大項目別評価

(1) 大項目別評価結果（一覧）

大項目（8区分）		項目		項目別評価結果 ※(1)				評価結果 ※(2)
				a	b	c	d	
第2	大学の教育研究等の質の向上に関する目標							
1	教育に関する目標	事業	57	8	47	2		B
		指標	1		1			
2	研究に関する目標	事業	4		4			B
3	地域貢献、地域の人材育成等に関する目標	事業	9	1	8			B
4	国際交流に関する目標	事業	3	1	2			B
第3	業務運営の改善及び効率化に関する目標	事業	13	2	11			B
第4	財務内容の改善に関する目標	事業	21	3	18			B
第5	自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標	事業	4	1	3			B
第6	その他業務運営に関する目標	事業	10		8	2		B
合計（令和3年度業務実績評価）		—	122	16	102	4	0	
（参考）令和3年度業務実績評価（法人評価）		—	122	32	90	0	0	
（参考）令和2年度業務実績評価		—	120	15	99	6	0	
（参考）令和2年度業務実績評価（法人評価）		—	120	26	89	5		
（参考）令和元年度業務実績評価		—	101	16	71	14	0	
（参考）令和元年度業務実績評価（法人評価）		—	101	36	61	4	0	
（参考）平成30年度業務実績評価		—	93	17	56	17	3	
（参考）平成30年度業務実績評価（法人評価）		—	93	31	53	8	1	
（参考）平成29年度業務実績評価		—	104	9	69	25	1	
（参考）平成29年度業務実績評価（法人評価）		—	104	6	96	2		

※(1) 事業単位評価／指標単位評価

a：年度計画を達成

b：年度計画を概ね実施

c：年度計画を十分に実施せず

d：年度計画を大幅に下回る

※(2) 大項目別評価

A：中期計画の進捗は順調

B：中期計画の進捗は概ね順調

C：中期計画の進捗はやや遅れている

D：中期計画の進捗は遅れている

3 項目別の事業単位・指標単位評価

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

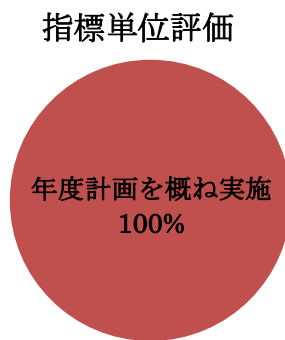
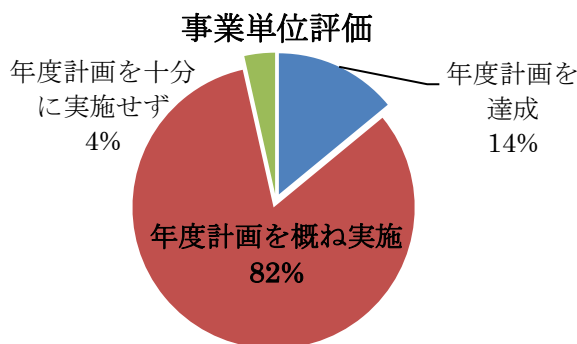
1 教育に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

(1) 評価理由

57項目のうち、8項目が「a評価」(年度計画を達成)、47項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、2項目が「c評価」(年度計画を十分に実施せず)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	57	8	47	2	0
評価結果	構成比	(14%)	(82%)	(4%)	(0%)
指標単位	1	0	1	0	0
評価結果	構成比	(0%)	(100%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 学生の災害時危機管理のため、新入生に向けたマニュアル作成・配布、情報発信だけでなく、実証テストを行ったことは評価できる。(No. 36)
- (イ) 定期的な障害のある学生との懇談会の開催等、適切な取組がなされており、支援体制が充実していると判断した。(No. 42)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) TOEIC等の外部検定試験の高スコア取得者への資格取得奨学金制度については、制度の趣旨から対象者等を根本的に見直し、年度計画に具体的な数値目標を掲げるべきと考える。(No. 4)
- (イ) 教員の2割以上で研究評価の最低ランクのE、社会・地域貢献評価ではDとE合わせて2割以上となっており、しかもこの2項目はここ3年間のものである。教員間で大きな差があることが明らかとなっていることは真摯に受け止めるべきで、改善が求められる。(No. 20)
- (ウ) 身体とこころの健康チェック集計結果によると、回答率36.7%となっており、この回答率で、不調を抱える生徒の対応ができていると考えるのは不十分だと考える。コロナ禍という非常事態の中で、回答率の向上に向けた取組や、実施方法の見直し、きめ細かな対応を希望する。(No. 29)
- (エ) 入試内容の変更は直ちに実施できるものではないが、実質倍率の改善に向けた検討に取り組み、入試を早急に見直すべきと考える。(No. 59)

2 研究に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

4項目のうち、4項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	4	0	4	0	0
評価結果	構成比	(0%)	(100%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 科学研究費補助金の申請率が昨年度よりも下がったものの、目標に対しては達成しており順当と評価する。(No. 62)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 淡水生物学研究所が共同利用施設として発展するための環境整備を進めるとともに、学内外の広い範囲での利用が進むことを望む。(No. 61)

(イ) 教員業績については、単著、共著、論文、その他の執筆、マスコミ取材等を毎年まとめて公表すべきである。(No. 62)

(ウ) コンプライアンスに関する研修等については最低限の取組という印象であり、レベルが高い取組とはいえない。(No. 64)

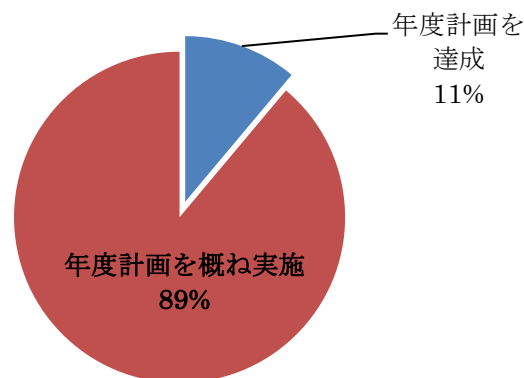
3 地域貢献、地域の人材育成等に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

9項目のうち、1項目が「a評価」(年度計画を達成)、8項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	9	1	8	0	0
評価結果	構成比	(11%)	(89%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 総合型選抜入試等で上田地域定住自立圏内出身者の進学機会の確保を担っていることから、相応の進捗と判断する。(No. 69)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 高大連携協定校との支援に取り組んでいるものの、一部は案内するに留まっている。小学校・中学校・高等学校との連携については先方の意向もあり、実施は難しいところはあるものの、尚一層の努力を希望する。(No. 74)

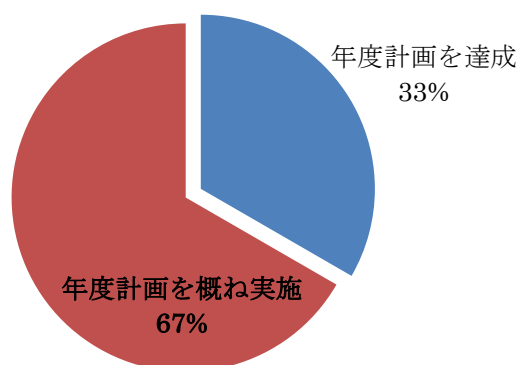
4 国際交流に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

3項目のうち、1項目が「a評価」(年度計画を達成)、2項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	3	1	2	0	0
評価結果	構成比	(33%)	(67%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 留学生への支援については継続的な取組が求められる項目であるが、専任スタッフによる留学生支援の継続に期待する。(No. 81)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) ニュージーランドのクライストチャーチ工科大学とは進展があったが、台湾の醒吾科技大学とは進展が見られない。中期計画に照らしても、遅延している。コロナ禍以前からの遅延でもあり、更に現在の状況を踏まえて、対象校の選択肢を増やしたり、留学の方法もオンラインの選択肢を設けたりする等、柔軟な対応を検討する必要があると考える。(No. 80)

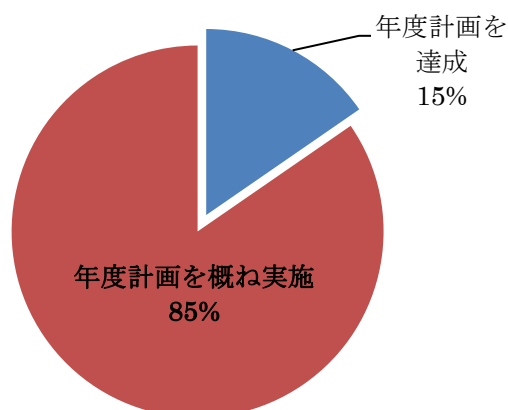
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

13項目のうち、2項目が「a評価」(年度計画を達成)、11項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	13	2	11	0	0
評価結果	構成比	(15%)	(85%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 監査においては、フォローアップ監査による過去の指摘事項に対する改善状況が大変重要であり、丁寧に確認できたことを評価する。(No. 86)
- (イ) 事務職員の評価制度導入に向けての準備が整ったことを確認した。今後の取組に期待する。(No. 91)
- (ウ) 若手業務改善ワーキングチームからの提言による、新たな目線での業務効率化は大変重要であり、恒常的な取組に期待する。(No. 96)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 経営審議会、教育研究審議会のジェンダーバランスについては、数値の目標を作る等、積極的な改革が望まれる。同職種・同年代・同性の同質性の高い集まりよりも、様々な視点が入る多様性のある会の方が健全な運営ができると考える。(No. 82)
- (イ) 理工系学部設置、大学院・学部学科再編構想、淡水生物学研究所等、長野大学の今後を左右する重要な運営決定を適切なタイミングで行っていく必要がある (No. 87)

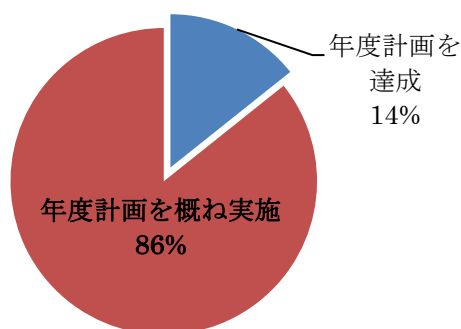
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

21項目のうち、3項目が「a評価」(年度計画を達成)、18項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	21	3	18	0	0
評価結果	構成比	(14%)	(86%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 「入試制度(入試区分別定員)の点検結果報告」に基づき、今後継続的にデータを取り、適切な学生の獲得につなげることを希望する。(No. 97)
- (イ) コロナ禍のなか、可能な限り、オープンキャンパスや高校説明会、大学見学会を実施し、学生募集を推進している。(No. 100)
- (ウ) 様々な寄付金事業の周知により、寄附金受入額が最高額になったことは評価でき、継続的な取組を希望する。(No. 108)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) ホームページについては、一部リニューアルされているが、本質的に見やすさや見つけやすさという観点では、更なる改良の余地があると考えます。(No. 104)
- (イ) 財政シミュレーションについては、他大学との比較も一手法ではあるが、当大学の特徴や目的を見失わず、持続可能な運営体制に向け、検証を繰り返してほしい。(No. 110)
- (ウ) 外部資金の使い勝手が悪い等の問題点が研究交流広場で指摘されているが、理工系学部の設置方針を踏まえれば、外部資金に限らず他大学並みの予算執行・調達制度の構築・運用の弾力化に早急に取り組むべきである。(No. 112)

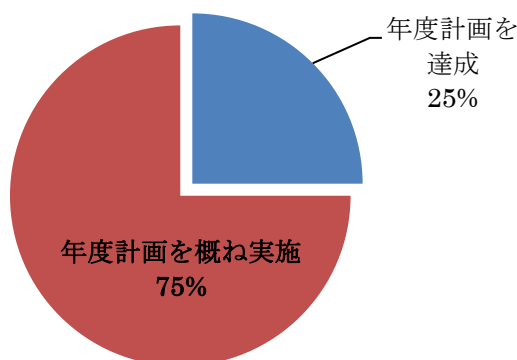
第5 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

4項目のうち、1項目が「a評価」(年度計画を達成)、3項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	4	1	3	0	0
評価結果	構成比	(25%)	(75%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) ホームページ等において、必要十分な情報公開がなされていることを確認した。特に、財務レポートについてはわかり易くまとまっており、評価できる。(No. 123)

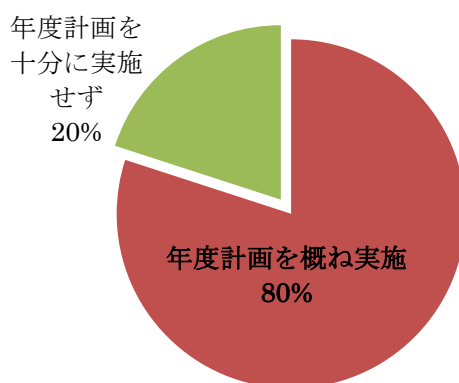
第6 その他業務運営に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

10項目のうち、8項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、2項目が「c評価」(年度計画を十分に実施せず)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	10	0	8	2	0
評価結果	構成比	(0%)	(80%)	(20%)	(0%)



(2) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 安全衛生管理に関する研修会については、一度研修会を開いただけでは十分なケアが出来ているとは言えず、今後を期待する。(No. 130)
- (イ) ハラスメントについて具体的な改善策が示されておらず、内部監査においても、委員会の体制の見直し(外部委員の登用、ジェンダーバランス等を考慮)について、指摘されている。(No. 132)